

シリーズ「エスペラントの今」 no. 1

発表からすでに127年が経過し、今では自然語の中の少数言語の一つといわれるまでになった「誕生日のあることば」エスペラント。日本では、過去のことばと思われがちですが、グローバル時代の今、世界中に存在するエスペランティストによって広く実用され、国籍も人種も超えた人間同士の理解とコミュニケーション可能性を促進させることばとして認知されています。

この度、一般財団法人日本エスペラント協会は、エスペラントの現状を広く知っていただくため、定期的なお知らせをお送りさせていただくことにいたしました。

■ユネスコとの関係について

・世界エスペラント協会*1は、国連とユネスコ公認のNGOとして、協力・連携関係を持つ

特に、教育・科学・文化、コミュニケーションを通じて国際理解、国際協力を推進し、人々の交流を通じた国際平和と人類の福祉を促進するというユネスコ憲章の理念と、エスペラント運動の目的は合致している。

・モンテビデオ第4回ユネスコ総会（1954年12月10日）でのエスペラントに関する決議*2

「エスペラントが国際間の知的交流および世界の諸民族の親善の分野において成し遂げた実績に注目し、これらの実績がユネスコの目的と理想に合致することを認め、いくつかの加盟国が、学校および高等教育機関においてエスペラント教授を導入あるいは拡大するがあることを表明していることに注目し、さらにこれらの加盟国に対し、この分野において達成した実績について事務局長に報告するよう要請し、事務局長に対し、教育科学文化におけるエスペラントの利用における発展の実情を追い、かつこの目的のためにユネスコと世界エスペラント協会の双方に関する諸問題についてこの協会と協力するよう権限を与える。」（要約）

・エスペラント100周年を祝す決議—第23回ユネスコ総会（1985年、ソフィア）

「エスペラント発表100周年にあたり、国際理解と各国の人々の間のコミュニケーションを可能にしてきたエスペラントが果たしている貢献と役割について認め、さらに国籍・文化を異にする人々の間の理解を促すために、加盟各国の学校教育に言語問題についての授業とエスペラント教授の導入を促し、同時に国際NGOに対して、ユネスコ活動を含めたあらゆる情報を広める手段としてエスペラントを活用する可能性を探るよう勧める。」（要約）

・エスペラントがポーランドで無形文化遺産に登録される（2014年11月20日）

将来のユネスコの無形文化遺産への登録申請の基となることが期待される。

=====

*1 世界エスペラント協会(Universala Espernto-Asocio/UEA)

1908年設立、エスペランティストのための世界最大の組織で、120か国に会員がいる。本部はオランダのロッテルダム。日本エスペラント協会は、その国別会員。

*2 決議から60年を記念した「モンテビデオ60」関連行事が第100回世界エスペラント大会（フランス、2015年7月）まで世界各地で行われる予定。